

は じ め に

寒露の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成 26・27・28 年度京田辺市教育委員会「子ども・学校応援プロジェクト」教育実践モデル校研究発表会に、公務ご多用にもかかわらずご参会いただき、誠にありがとうございます。

さて、培良中学校、草内小学校、田辺東小学校の 3 校は、小中連携を通じて、児童生徒の学力を向上させる研究に、3 年前に取り掛かりました。それ以前にも 3 校の小中連携を進める組織として、『培良ブロック学力向上推進委員会』がありましたが、委員会の活動内容を大幅に見直すことにより研究を進める体制を作りました。

私たちは、小中連携を考える時に、2 つの視点が大切だと考えています。

1 つは、何を連携すれば効果が上がるのかという視点です。小中の文化の違い、年間の教育課程の違い、地理的な条件等を鑑みて、児童生徒の交流等の、悪く言えば一発花火的な取組は、無理して行わないで、恒常的な、そして、学力向上に本当に効果のある連携を探りたいということです。

もう 1 つの視点は、連携には、なだらかな接続と、あえて段差(ステップ)や壁を設けて、それを越えさせることで成長を促すという 2 つの連携の仕方があるという視点です。すなわち、何をなだらかに接続し、何をステップにするかです。

培良ブロックでは、上記 2 つの視点に沿って、次の 3 つの分野を中心に連携していくことにし、3 つの部会を設けました。1 つは、家庭学習を中心に、児童生徒が自主的に学習に取り組む方策を練る『学習活動部会』です。2 つめは、小学校の外国語活動と、中学校の英語科を効果的に結びつけるための『外国語活動部会』です。そして 3 つめが、小中で互いの授業についてもっとよく知り、お互いの良さを交流し、互いに共通して授業改善を進めていく『授業力部会』です。もちろんこの 3 つの部会は、全国学力学習状況調査や京都府の学力診断テスト等の学力分析を行う『学力分析会議』の結果を踏まえて計画、実践しています。

3 年間の研究や交流で、様々な気づきや成果、そして課題もありました。各校の独自の課題や重点研究と、この研究をどう折り合いをつけて進めていくかについても、様々な工夫を重ねてきました。しかし、今、改めてこの 3 年間の取組を振り返ってみたところ、まだまだ緒に就いたばかりというのが実感です。今後、様々なご示唆やご指導を仰ぎながら、培良中学校区の児童生徒の 9 年間を通じた、更なる学力向上を目指したいと考えています。

最後になりましたが、ご指導・ご支援を賜りました京田辺市教育委員会をはじめ関係の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成 28 年 10 月 21 日

京田辺市立	培良中学校	校長	山 上 明 司
同	草内小学校	校長	西 村 光 弘
同	田辺東小学校	校長	村 中 三千代